

ある日、飛ぶことを覚えたレザールの おはなし

昔々あるところに、とても長い足をしたレザールという動物がいました



他の動物たちはレザールを馬鹿にしていました

ある日、レザールにとても驚くことが起きました
レザールの腕に羽が生えてきたのです



羽が足に、
頭に、



そして、しっぽにまでも

今度は全ての動物がレザーを馬鹿にしました

木の实のように小さな脳をもった
おじさんのステゴサウルスも、



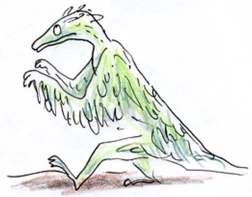
いとこのプテラノドンも、



ざらざらした肌のトリケラトプスまでもがレザーを馬鹿にしました



とうとう、レザーは姿を見せる勇気がなくなってしまいました



ある日、大きなジュラ紀の森の中で、ものすごい足音が聞こえて地面がぐらぐらとゆれました



そして、動物のすさまじい鳴き声が聞こえました



ティラノサウルスだ！

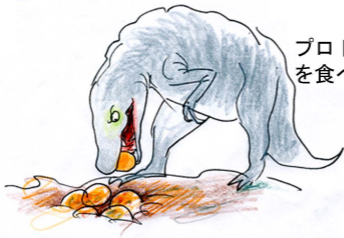


ティラノサウルスはカモのような口ばしで、
道にいた恐竜のおなかを裂きました



それから、メスの
プロトセラト
プスはこわくて
逃げました

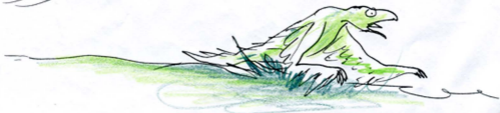
プロトセラトプスの卵
を食べるためでした



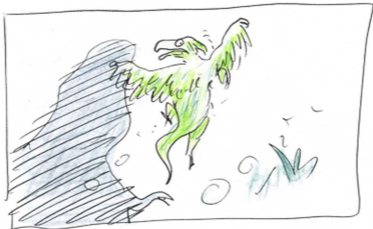
その時、ティラノサウルスは、この怖い夢のような光景におびえているレザールに気づきました



かわいそうなレザールは逃げよう
としましたが、長い脚のせいでう
まく走れませんでした



レザールは自分に近づいてくるおそろしい影を見ようと、時々後ろをふりかえりました



ティラノサウルスは、このかわいそうな動物レザールが大好きで、前にたれさがった唇で舌なめずりをしていました



どちらも、断がいぜっべきに向かって走っているということに気づいていませんでした



レザールはそれに気づいて、どうせ死ぬのならこのおそろしい化け物にむさぼり食われて死ぬより、この岩に向かってくだけ散ったほうがよいと思いました

レザールは最後に腕を広げ、目をつぶり、空中へ飛びました



どん欲な光った目つきをしたティラノサウルスは、レザールに飛びかかりました

そして頭がぐだけ散ってしまいました



ティラノサウルスは断がいへ落ちてしまいました

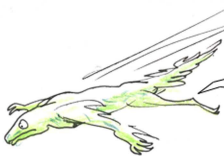
ううう...



レザールは自分がまだ生きていることにとても驚きました



信じられない！
僕は飛んでいるぞ...

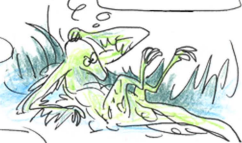


あまりうまく飛べないけど、とにかく僕は宙に浮いているんだ



ちくしょう！せめて下に降りられればなあ…

どこもけがしてないぞ



それは何に使うんだい？



羽が生えて、とてもうれしいよ
これがなかったら、僕はさっき食べられてしまっていたからね

飛ぶことを覚えたレザールは、すっかり
元気を取り戻し行ってしまいました



難しいことが好きな学者たちは、レザールのこ
とを始祖鳥（しそちょう）と呼び、鳥の祖先と考
えています

